

9. 航空気象観測所実況気象通報式 (SCAN)

通報型式：

CCCC YYGGggZ dddffGf_mf_mKT $\left\{ \begin{array}{l} \text{VVVV} \quad \text{w''w''} \\ \text{又は} \\ \text{CAVOK} \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} \text{N'sN'sN'sh'sh'sh's} \\ \text{又は} \\ \text{SKC} \end{array} \right.$

T'T'/T'dT'd QP_HPHPH_H RMK AP'_HP'_HP'_HP'_H その他の記事

型式解説：

この通報式は、航空気象観測所気象報を通報する場合に用いる。

符号解説：

- (1) CCCC (地点略号), YYGGggZ (観測日時), dddffGf_mf_mKT (風), 及び VVVV (卓越視程) は、定時飛行場実況気象通報式及び特別飛行場実況気象通報式 (以下、定時/特別飛行場実況気象通報式という) による。
- (2) w''w'' (特別な現在天気) には、次の表により略語を報ずる。この表にない現在天気の場合は、w''w''は報じない。
また、特別な現在天気に該当する大気現象が二つ以上共存する場合は、表の順序で、より重大な現象だけを報ずる。

順序	略語	解 説	順序	略語	解 説	順序	略語	解 説
1	FC	ろうと雲 (竜巻)	5	BLSN	地ふぶき	9	RA	雨
2	+TS	強い雷電	6	+SN	強い雪	10	FG	霧
3	TS	雷 電	7	SN	雪	11	BR	も や
4	SHGR	ひょう, あられ	8	+RA	強い雨			

- (3) N'sN'sN'sh'sh'sh's (雲) は、次により報ずる。
 - 1) N'sN'sN'sh'sh'sh's 群は、いくつもの雲層を報ずる場合に繰り返して報ずるが、雲が全くない場合は、略語 SKC を報ずる。
 - 2) 各群は常に高度の低いものから高いものへの順に報ずる。
 - 3) 雲底の高さがほぼ同一の雲及び 5000 フィートを超える雲については、存在位置に関係なく、それぞれ同一の雲層とする。
 - 4) 鉛直方向に発達した雲が異なる高さで水平方向に広がっている場合は、それぞれを別の雲層とする。
 - 5) N'sN'sN's (雲量) は、雲量 1~2 オクタスを FEW, 3~4 オクタスを SCT, 5~7 オクタスを BKN, 8 オクタスを OVC として報ずるが、雲底の高さが 5000 フィートを超える雲については、存在位置に関係なく、それぞれ同一の雲層とし、その雲量を報ずる。
 - 6) h'sh'sh's (雲底の高さ) は、定時/特別飛行場実況気象通報式の第 1 表を準用して報ずるが、不明の場合には///, 5000 フィートを超える場合には XXX と報ずる。

7) 観測時に次の状態が同時に起きている場合は、VVVV, w''w''及びN'sN'sN'sh'sh'sh's群の代わりに**CAVOK**を報ずる。

(a) 卓越視程：10 km以上。

(b) 雲：1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、かつ、積乱雲がない。

(c) 天気：(2) 項の表に該当する現象がない。

注：最低扇形別高度は、AIP JAPANに次のように定義されている。

航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物件から、平野部については 300m (1000ft) , 山岳部については 600m (2000ft) の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。

(4) T'T' (気温) 及び T'dT'd (露点温度) は、定時/特別飛行場実況気象通報式を準用して報ずる。欠測の場合は//と報ずる。

(5) QP_HPHPH_H—QNH (hPa) は、定時/特別飛行場実況気象通報式を準用して報ずる。欠測の場合はQ////と報ずる。

(6) AP'_HP'_HP'_HP'_H—QNH (inHg) は、定時/特別飛行場実況気象通報式を準用して報ずる。欠測の場合はA////と報ずる。

(7) その他の記事は、積乱雲が観測された場合のみ報じ、積乱雲の存在位置を例えば CB 10KM N (積乱雲が北 10 kmにある) の型式で報ずる。

【通報例】

SCAN RORY 150030

RORY 150030Z 17005KT 2000 BR BKN010 OVC050 27/25 Q1013 RMK A2966=